

【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

August 2020 8

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2020年8月1日発行(毎月一回発行)第752号

● 出会い・本・人

キリスト教とどうかかわるか 岡田 聡

● 特集「キリスト教教育」を学び直すには

この三冊！ 森田美千代

● 本・批評と紹介

小島誠志著 見出された命 渡辺正男

M・テイリー、W・ツヴィッケル著／山我哲雄訳

古代イスラエル宗教史 月本昭男

明治学院テキスト作成委員会編 ヤバいぜ！ 聖書 西原廉太

ドロテー・ゼレ著／三鼓秋子訳 逆風に抗して 山本泰生

越川弘英著 今、礼拝を考える「新装増補版」 北村裕樹

スタンリー・ハワーワス著／東方敬信訳

宇宙の筋目に沿って 藤原淳賢

久野 牧著 JKに語る！ 新約聖書の女性たち 矢澤励太

「本のひろば」バックナンバー表

既刊案内

書店案内

近刊予告

2020年
8月25日
刊行予定

日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久 監修
日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。
日本キリスト教史研究の里程標ともいえるべき必須の基礎文献。

●B5判・函入・1016頁・本体45,000円 ◆特別定価 本体42,000円 (2020年11月30日まで)



次世代への信仰継承のために！

日本キリスト改革派教会大会教育委員会 著
牧田吉和 監修

『子どもと親のカテキズム』解説

神さまと共に歩む道

聖書の信仰を「神さまと共に道を歩む」という動的な概念で位置づけたユニークな信仰問答として親しまれている『子どもと親のカテキズム』。そのカテキズムを信仰的対話の土台として用いるための最良の手引き。

●四六判・並製・300頁・本体2,000円

好評既刊

子どもと共に学ぶ
新・明解カテキズム

全国連合長老会日曜学校委員会 編 関川泰寛 解説

「わたしたちが生きるために最も大切なことは何ですか？」現代人に「生きる目的」を問いかけて、神との出会いへ導く信仰問答。好評であった『明解カテキズム』と『統・明解カテキズム』を全面改訂し、合本にした新版。

●四六判230頁・本体1,900円



子どもと親のカテキズム

神さまと共に歩む道

日本キリスト改革派教会大会教育委員会 著

はじめて教理を学ぶ人のために作られたカテキズム(信仰問答・教理問答)。教会学校・日曜学校や教員の家庭のみならず、洗礼志願者への信仰の手引きとしても使える。前神戸改革派神学校校長の牧田吉和氏を中心に編纂。

●B6判64頁・本体500円

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549 (出版部直通) 《呈・図書目録》キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は(e-shop 教文館)
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！



キリスト教とどうかかわるか—わぎによらずして

岡田 聡

今春、長年の課題であった、フリッツ・ブーリの『実存の神学』の訳出を、ヨベル社から果たすことができた。ブーリは、シュヴァイツァー、ヤスパースらから影響を受け、ブルトマン、バルトラとの対決のなか、自らの哲学的神学を形成したスイスの改革派の神学者である。

ブーリのもとで学ばれた笠井恵二氏は、ブルトマンを知らなければキリスト教から離れていたかもしれないと、お書きになられているが（『ブルトマン』清水書院）、そもそも哲学の立場に立つ私は、ブルトマンや、さらにブーリとの出会いがなければ、キリスト教へと近づいていなかった、あるいは近づけていなかった、かもしれない。

ブルトマンは、新約聖書を「非神話化」し、つまり人間の自己理解として解釈し、われわれを、この世への頹落（＝とりこ）かこの世からの解放かの実存的な決断に、直面させる。ただし、「キリスト」についてのケリユグマ（＝宣教）こそが、この決

断を可能にするという。ここで、キリスト者ではない私は、蹶かざるをえない。

ブーリによれば、決断を可能にするとされるこのものは、ブルトマンにおける神話の「残滓」であるという。そして、新約聖書をさらに「非ケリユグマ化」し、この世からの解放は、万人に可能な、「贈り与えられたものだ」という、そのつどのわれわれの自己理解において、なされうるとする。そのさい、いわゆる史実的イエスは、その——唯一ではなく——比類ない現れとして見なされるのである！

ブルトマンが師のヘルマンとともに書くように、受け入れられないことを無理に受け入れることは、信仰をわぎに低めることではないのか？ 私もいよいよ不惑であるが、これからも、あくまで哲学の立場から、ヤスパースやブルトマン、ブーリらを手がかりとして、キリスト教とのかかわり方を探りつづけていきたい。

（おかだ・さとし＝立教大学ほか非常勤講師）



教育研究

その松川先生が、尽力されて創立にこぎつけられ、初代会長として長い間学会を牽引してこられた「日本キリスト教育学会」の創立30周年記念誌が『キリスト教育研究』（日本キリスト教育学会編）として、今年（二〇二〇年）、刊行された。本書を「この三冊！」の一つとして推薦したい。

『キリスト教育研究』は、日本の研究者たちが過去三十年に亘って、キリスト教育のどこいうところに関心をもち、それをどういうふうに深めてきたかを俯瞰できる最適の書である。読者は、自分の興味と関心によって、どこからでも学び始めたり、学び直したりすることができる。

本書は、三部構成になっている。第一部はキリスト教育の歴史、第二部はキリスト教育の理論、第三部はキリスト教育と現代社会、である。各

キリスト教育を学び直すには ▼この三冊！

森田美千代（もりた・みちよ・聖学院大学大学院客員教授）

松川成夫先生は、晩年、筋肉が萎縮硬化するALSの病を得られた。その時、先生は、「定められた時は迫っている」というパウロのことばをしばしば思い出されたそうである。定められた時の迫りのなかで、その時をどう生きるかが、先生の課題になった。「古来、白鳥は自身の死が近づくと美しく歌うと言われている」。ペスタロッチは、自らの人生を顧み、自らの『白鳥の歌』を書いた。松川先生も「私の『白鳥の歌』を書こうと思った」。松川先生の、

その『白鳥の歌』こそ、『教育の根底にあるもの—キリスト教と教育についての小論集』（二〇〇一年）である。その内容は、どれも「キリスト教育」の本質に肉薄するものばかりである。しかも、先生の研究それ自体と先生のキリスト者としての品格が、一体となって行間からにじみ出ていることを感じさせられる。残念なことに、これは非売品なので、「この三冊！」に入れることができなかった。

日本キリスト教育学会編『キリスト

部にはそれぞれ、道案内がある。そのなかで、吉岡良昌氏が、アメリカのキリスト教育学者T・H・グルームを参考にして、キリスト教育の本質論（what）、キリスト教育の目的論（why）、キリスト教育のコンテンツ論（where）、キリスト教育の方法論（how）、キリスト教育のレイディネス論（when）、キリスト教育の教師論（who）という、キリスト教育の5W1Hを、キリスト教育の理論的枠組みとしてまとめている（二〇三頁）。この整理のしかたは、キリスト教育を研究し実践する場合のみならず、キリスト教育について書かれたものを読む場合にも大変役に立つといえる。

筆者は、日本における、最近のキリスト教育が、「教会の視点」をどれほど持ち合わせているかについて、一抹の不安を抱いている。筆者自身は、教職人生のほとんどすべてを、キリス

ト教学校で過ごした。しかしキリスト教学校でのキリスト教育だけで十分であるとは決して考えなかった。キリスト教学校で行われるキリスト教育は、教会ないしは教会におけるキリスト教育にその「基盤」をもっているとの考えは揺らがなかった。教会につながるらないでもキリスト教育の研究はできる、あるいは教会につながる、実践であると言わざるをえないのではないだろうか。

その点に関して、『キリスト教育研究』で、朴憲郁氏が、次のように述べていることは、上記筆者の「不安」が共有されているのではないかと思わされている。朴氏は、ドイツのキリスト教育学会—それも教会における—に、論文の大部分を割いているのであるけれども、朴氏のまなざしは、日本

におけるキリスト教育が抱えている「危うさ」と、（それにもかかわらず）希望」に注がれていると感じさせられる。氏は、次のように述べている。「本学会『日本キリスト教育学会』全体の傾向として、教会教育を本格的に視野に収めているとは言い難い。『中略』日本を含むアジアのプロテスタント系キリスト教学校の多くが、十九世紀後半より主に欧米プロテスタント諸教派教会の海外宣教団体によるミッションスクールとして設立され、維持・発展してきた長い歴史をもっている。いわば、そういう仕方では教会的基盤をもってきた。『中略』敗戦後、全般的に見て、教会的な繋がりがや基盤は希薄なものになった。『中略』礼拝を中心とする告白的キリスト者共同体の存在なくして、キリスト教学校もキリスト教育とその担い手も生み出され得ず、その生命線を欠くことになるのは明らかで

ある」(二三五頁)。筆者もまったく同

感である。ここまでは、キリスト教教育―主として学校におけるキリスト教教育―は、その基盤を教会にもっていなければならないのではないだろうかということについて述べてきた。

上野峻一・田中かおる編著『恵みによって生きる人間の形成』

次に、筆者が推薦したいのは、キリスト教教育の理論と実践に焦点を当てた『恵みによって生きる人間の形成―キリスト教教育の理論と実践』である。

私たちはよく「キリスト教教育の理論と実践」という言い方をする。そして、それは「キリスト教教育の理論研究と実践報告」であることが多い。筆者は、そうではなくて、「キリスト教教育の理論研究と実践研究」でなければならぬのではないだろうか、と常々考えている。実践報告を含みながら、それが研究にまで深められている

ことが望まれる。

その点において、本書に取められている、西島麻里子氏の「キリスト教教育が『日本の地方』で生きるための考察」は、単なる実践報告に終わらずに、実践研究の域に達している。ステレオタイプではない着想の新鮮さ、仮説の立て方、神学の学び、そしてその神学を教育実践に接地させること、などである。なお、本書『恵みによって生きる人間の形成―キリスト教教育の理論と実践』は、筆者が、『キリスト教教育論集』第27号、日本キリスト教教育学会、二〇一九年、59-63頁において書評をしているので、関心のある方はそちらもお読みいただきたい。

最後に「この三冊！」として筆者が選んだのは、『放蕩息子の帰郷―父の家に戻る物語』である。読者のなかには、筆者がこの書を選んだことを

不思議に思っておられるかもしれない。しかし、ナウエンが、レンブランドの「放蕩息子の帰郷」の絵のなかの「盲目に近い父は、遠くを見、そして広く見ている」(二三三頁)、と言っているように、この時代にキリスト教教育に召されている者も、遠くを見ることができそして広く見ることができ

ような、「新しい息吹」を注いでくれる書物に触れることが望まれる。本書は、新しい息吹を運んでくれる、「父となること」論であり、「教師になること」論である、といえる。

ナウエン(一九三二―一九九六)は、カナダのトロントにあるラルシュ・コミュニティで、一九八六年から、知的ハンディをもった人々と共同生活を続けた牧者である。

ナウエンが本書において、自らに課題として課しているのは、「他者のための父となること(母となること)」

である。「わたし「ナウエン」は弟と兄の両方「ルカ福音書15章11-32節のたとえ話の弟息子と兄息子」ではあっても、そのままではなく、父となる。もちろん、父や母は、かつて息子や娘であった。しかし、息子や娘は、それぞれの子ども時代「弟息子や

兄息子の時代」を抜け出て、他者のための父や母となるステップを意識的に選び取らねばならない」(一六九頁)。そして、ナウエンは続けて、「父となることは可能だと、信頼しなければならぬ」(一七九頁)と言う。「父となること」は、キリスト教

育に関わる者にとっては、「教師になること」であると言ひ換えてもよい。そして、「教師になること」とは、ナウエンの学びを経れば、知的にも、意識においても、情緒的にも、霊的にも、マチュアになることであるといえる。「教師になること」によって、教師なのである。新鮮で魅力的な教師論である。

『キリスト教教育研究』

日本キリスト教教育学会30周年記念

日本キリスト教教育学会：編

2020年刊、B5判408頁

4000円(送料込)

問い合わせ先：

日本キリスト教教育学会事務局

〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地

北陸学院大学 富岡和久研究室気付

電話：076-280-3850、Fax：076-280-3851

E-mail：info@jsce1988.jp



『恵みによって生きる人間の形成』

人間の形成

キリスト教教育の理論と実践

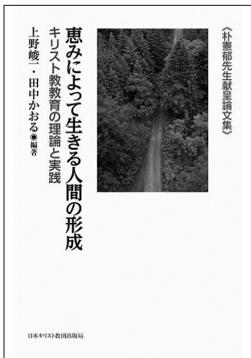
上野峻一・田中かおる：編著

日本キリスト教団出版局

2018年刊

A5判224頁

2600円(税別)



『放蕩息子の帰郷』

父の家に立ち返る物語

ヘンリ・ナウエン：著

片岡伸光：訳

あめんどう

2003年刊

A5判206頁

2000円(税別)



誠実な牧者が紡ぐ、 生きた福音の言葉

〈評者〉 渡辺正男

見出された命

聖句断想6
小島誠志



見出された命

聖句断想6
小島誠志著

あとがきに、「今の時代、教会がしなければならぬことは、福音に深く聴くことだと思っています。深く聴かれた福音は泉のように、どこかに溢れ出る時が必ず来ると信じています」と記されています。

著者は、四国の久万教会の牧師です。その教会の週報に記された聖書の言葉とメッセージ一八三篇が、本書に収められています。メッセージは、「深く聴かれた福音」の凝縮した言葉です。一頁ごとに、聖句とそのメッセージが記されているのです。一日一頁、聖句とその的確な解き明かしを、味わいかみしめることができます。

「聖句断想6」と題されています。これまでの五冊は、著者の前任地である松山番町教会の週報から採られたことです。そして本書は、著者小島誠志牧師が歳を重ねてから伝道・牧会に励んでいる久万教会の週報に記された言

葉です。小島牧師は、今年傘寿を迎えて「アラ傘」の仲間に加わったでしょうか。「アラ傘」の仲間の一人として、親しみをもって読ませていただきました。

心に残っているメッセージの二つを紹介しましょう。

「主イエスが去っていくのは『父の家』に弟子たちの住む所を確保するためだと言われています。永遠の住居を確保していただいた者として、すなわち、既に天に根拠を得た者として弟子たちは世を生きるのです。

帰るべき家ががあるから、子供たちが安心して夢中で遊んでいるように」。——これは、ヨハネによる福音書一四章二節の解き明かしです。

「しかし、そのわたしたちのしんがり（うしろ）を神は歩いてくださいます。一つ一つきちつと後始末をしなから。汚れた跡を清めながら。この神のあわれみ——イエ

ス・キリストの贖いがあるから、わたしたちのような罪人も希望をもって前に向かうのです」。——これは、イザヤ書五二章一二節の「あなたたちの……しんがりを守るのもイスラエルの神だから」の解き明かしの一部です。

信仰の箴言のような言葉ですね。このような福音の説教に、毎週与かる会衆は幸いだと思います。感想を二つ記します。

第一は、格闘するようにして聴いた福音を、著者自身の言葉で語っていることです。「借りものの言葉で詠へぬ齡となりいよいよ平明な言葉を選ぶ」（河野裕子）という短歌があります。そのように、歳を重ねた小島牧師は、ご自身の身体を通った言葉で、平明に、端的に主イエス・キリストの福音を語っている。借りものでない福音の言葉は、

人の心深くに届くのではないでしょう。

第二は、語る福音に著者自身が生かされていることです。著者は、七十代になってから、四国山地にある小規模の教会に赴任して、伝道・牧会に励んでいます。わたしも六十代になって、北国の伝道所に仕えたので、とても親近感を覚えます。いろいろな生き方があるでしょう。著者は、命をさびつかせないで、用い尽くすように教会に仕える道を選んでいる。その生き方が、「福音に深く聴く」誠実な営みの背後にあるのです。

（わたなべ・まさお 日本基督教団隠退牧師）
（小B6判・二〇〇頁・本体一八〇〇円＋税・教文館）

信仰生活(再)入門シリーズ第2弾

信仰生活ガイド
全5巻

十戒

吉岡光人編

第2回
記本



十戒はなぜ今も唱え続けられているのか。コロナ禍に至るまでの現代的問題に目を向けつつ、その意義を紐解いていく。現代を生きるキリスト者にとっての十戒を知る決定版。四六判・128頁・1430円

89歳の神父が紡ぐエッセイ集

必ず道は開かれる

越前喜六



日常の喜びやぬくもり、悲しみや苦しみの意味、「復活」や「愛」などの言葉について、長年人々を導いてきた越前神父が語る。プレゼントに最適。片柳弘史神父推薦！
四六判・112頁・1100円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail: eigyuu@bp.ucci.or.jp 《価格10%税込》

http://bp-ucci.jp

聖書外資料に基づく 古代イスラエルの思想と信仰

〈評者〉 月本昭男



古代イスラエル宗教史

先史時代からユダヤ教・キリスト教の成立まで
M・テイリー、W・ツヴィッケル著
山我哲雄訳

聖書学で用いる「宗教史」(Religionsgeschichte)というドイツ語には「聖書外資料に目配りして」といった意味合いがこめられる。その意味で本書は「宗教史」と呼ぶにふさわしい。著者たちは考古資料をふんだんに用い、古代オリエント資料にも言及しつつ、イスラエル成立前からキリスト教成立までの「宗教史」をあとづけてみせる。

イスラエル・パレスチナにおける考古学研究は、「聖書考古学」という名称が暗示するように、聖書を理解するための補助学問とみなされる傾向にあった。しかし、前世紀後半から、数多くの遺跡調査が進行し、膨大な考古資料が蓄積されてきた。近年では、そうした聖書外資料に基づく古代イスラエル史や宗教史が構想されるようになった。従来、イスラエル宗教史は、おおむね、「族長時代」の歴史と信仰の叙述からはじまっていた。本書は、しかし、父祖

たちの時代から士師時代までを聖書記述に沿って論ずることとはしない。代わって、聖書の記述に登場する町々の遺跡で発見された聖所跡や宗教遺物が紹介され、それらの背後に想定される人々の宗教的営為が綴られてゆく。

聖書が語る歴史になじんだ読者は、たとえば出エジプトの出来事に触れないような「古代イスラエル宗教史」に失望されるかもしれない。だが、それが学問である。聖書の記述をそのまま史実と受けとめる時代は過ぎ去った。むしろ、聖書外資料に基づいて明らかにされる宗教史的背景に照らして、聖書の記述に織り込まれた古代イスラエルの人々の思想と信仰をとらえること、それが現代における聖書研究の重要な一課題であろう。そこから、ユダヤ教が育ち、キリスト教が成立する土壌がみえてくる。であればこそ、聖書外資料に基づき、時代ごとの宗教史的背景を探っ

てゆく本書のような文献が貴重なのである。

本書には原著者たちの知識不足を思わせる箇所も少なくない。「起源も意味も不明」とされるイシユハラはメソポタミアの豊饒女神、シャルマはフリ系の有力神(四二頁)。ソロモン神殿の建築様式は、考古学上、北シリアのタイナートの神殿跡との比較が必須だろう(一一五頁)。ヒゼキヤによる青銅の蛇の撤去は、ベエルシェバから壊されて出土した祭壇の側面に彫られた蛇と関連づけるべきであった(一四五頁)。ローマ時代では、日本の調査団によって発見されたシナゴグ跡(二〇一六年)を本書が知らないのは当然としても、マグダラのシナゴグと彫刻が施された巻物用石台(発見は二〇〇九年)に触れないのは怠慢というべきか(一九五頁)。

山我さんの訳文はすでに定評がある。評者が気づいた見落として、ゲベクリ・テペ↓ギョベックリ・テペ(一四頁)、エバズ↓エ・アブズ(一一二頁)、前八世紀↓前七世紀(一一二頁)、前六六年↓後六六年(三三三頁)、ドラ↓ドル(三三四頁)、イメージ↓図像(三三四頁、モザイク↓)、ヨツペ↓ヨツパ(三三七頁)など。「形像言語」(二二〇頁)は「定式化された言語表現」ということか。それにしても、本書のような実証性の高い古代イスラエル宗教史が旧約聖書のキリスト教的解釈とどのように切り結ばれるのか。読者に課せられた課題である。

(つきもと・あきお 上智大学特任教授)

(A5判・三三八頁・本体四二〇〇円+税・教文館)



新刊 聖書学論集51

日本聖書学研究所編
●A5判並製 130頁
定価3000円+税

五書と申命記主義的
歴史書における
共存・共生精神
魯 恩碩

壁を越える福音
—ルカ文書における
共生・共存—
嶺重 淑

六書の構成と土地の民
(アム・ハアレツ)的
文書活動
日高 貴士耶

「アラム語レビ文書」の
翻訳と注解
守屋彰夫

現代ヘブライ語
における
前置詞の重要性

ヘブライ語の歴史と
発展に関する一考察
アダ タガー・コヘン 著
同志社大学神学部神学研究所教授
●A5判並製 本体3,500円+税

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

広くお勧めしたい 「ヤバイ」入門書

〈評者〉西原廉太



ヤバイぜ!
バイブル
聖書
あなたに贈る40のメッセージ
明治学院テキスト作成委員会編

『本のひろば』読者の中には、本書のタイトルを見て腰を抜かした方もおられるかもしれない。『ヤバイぜ! 聖書』——あなたに贈る40のメッセージ。冒頭に、『広辞苑第7版』の「やばい」の定義が紹介されている。「やばい〈形〉(中略)②のめり込みそうである」。評者は本書を手にとってから一気に読み通した。正確に言うと、一気に読まれた。文字通り、「のめり込んだ」。その意味で、本書は実に「ヤバイ」のである。

本書は、明治学院においてキリスト教教育に携わる先生方が、明治学院の中高生・大学生のためのテキストとして作成されたものである。タイトルなどから一見、「今どき」の若者受けを狙ったよくあるサブカル的入門書の類かと思いつつ手に取った読者は、すぐにそれがとんでもない間違いであることに気づくことになる。

な物語を起動させるカギなのです」

その鍵穴のヒントとして、旧約聖書20箇所、新約聖書20箇所の合計40の聖書の物語が紹介される。各章はすべて見開き2ページに統一され、当該の聖書箇所についての「解説」が中心となるが、注目すべきは、参考「資料」、「アクティブラーニング」ならびに、欄外の「聖書はみだしコラム」である(これが面白い)。「解説」の内容は実に魅力的である。生徒・学生たちの目線に徹底して立ち切りながら、それでいて、深い洞察に満ちている。例えば、出エジプト記3章11―12節、モーセの召命を取り扱う章のタイトルは、「アウェイでの勝負。でも一緒にいてくれる相手がいる」である。本文はこう語る。「何をしようと、どこへ行くかと必ず一緒に寄り添ってくれる相手がいる。もしそんな相手がいるならば、失敗しようが、挫折しようが、批判されようが実は孤独ではないのだ」。

本書の特徴は、とりわけ「アクティブラーニング」に重

キリスト教学校にかかわる者であれば誰しも、ノンクリスチャンの生徒・学生を、いかにして聖書に親しませ、そこから意味を汲み取らせることができるかに、日々苦心しているはずである。本書は、そのためのヒント、糸口に溢れている。「はじめに」は、このような印象的なフレーズで始められる。

「聖書には無数の「穴」が空いています。虫喰い? もちろん違います。その「穴」は紙に空いているのではなく、聖書のことば自体にある「穴」です」「この「穴」は鍵穴です。そしてこの鍵穴が無数にあるわけですが、その99パーセントはあなたにとって無意味に見えるかもしれない。でも、少なくとも一つ、あなたのために何千年も前から用意されている「穴」があります。実は、あなた自身がこの「穴」に当てはまるカギなのです。あなた自身が壮大

点を置くことだ。従来型の単に聖書の知識を暗記させるだけではなく、何よりも生徒・学生たちが自分で聖書を読み、聖書の物語と、自らの物語を共鳴させて、そこに自分だけの「意味」を生まれさせること。そのため手がかりとして、「資料」では、豊富な参考文献、小説や映画、QRコード付の参照データが紹介される。これらを、丹念に当たれば、私たちがそれ以上に伝えるべきものはもはやない。「アクティブラーニング」では毎回3つの問いがなされる。「一緒にいることと依存は何が違うのだろうか」。こうした問いに応答してみること。

本書は、キリスト教教育が大切にすべきことは何であるかを、私たちに再認識させてくれる。キリスト教学校関係者はもちろん、教会での信徒の召命への助けとしても、一読をお薦めしたい。

(にしはら・れんたゝ立教大学教授)

(B5判・九六頁・本体一〇〇〇円+税・新教出版社)

ドイツの政治文化を写しだす 誠実な魂の記録

〈評者〉 山本泰生



逆風に抗して

逆風に抗して
ドロテー・ゼレ回想録
ドロテー・ゼレ著
三鼓秋子訳

戦後ドイツの革新的キリスト教を牽引した女性神学者ドロテー・ゼレ（一九二九―二〇〇三）の自伝的な回想録。ドイツと日本は、二〇世紀の歩みがよく比較されてきたが、いま、表面的な類似よりも、精神的土壌に潜んでいた違いが意識されはじめている。かつて映画の中のドイツ兵がすべて「悪人」であったころ、「いつの日かこのイメージが変わるように」と願うのは、奇跡を望むことだった。しかし奇跡は、ときとして、起こる。奇跡を起こすのは、精神の（霊的な）次元で、「夢」を、「幻」を、まじめに「夢みよう」とする人である。現在の日独の精神的次元の大きな相違は、戦後の世界史の歩みを、国民が「自分事」として共有したか、あるいは「他人事」として、「一部の左翼」の関心事として、やりすごしてしまったか、というところにあるのかもしれない。ゼレは、「宗教」担当の学校教師

をしながら、一九六八年、いまでも彼女の名前と結びついて記憶されている、ヴェトナム戦争のための祈祷集会「政治的な夜の祈り」の主事者となった。この「事件」から、ゼレは、信仰を守る保守的キリスト者と、世界の矛盾から目を背けない急進左翼とのほさまに立ち、両者に引き裂かれながら、同時に両者を結びつけ、ドイツ国民の精神の土壌を耕しつづけることになる。

げることなく向き合う（二六頁）。まさに同じ誠実さが、あの「政治的な夜の祈り」で発表され、順風・逆風にさらされた有名な詩「クレド」（七八頁）の底で響いている。それは、信仰と知性との間で、誠実に、大胆に、自分を引き裂かれるにまかせた魂の告白である。この大きな振れ幅を、保守的キリスト者大衆も、ついに深く身に着けた。現代のドイツに「成熟した」政治文化があるとすれば、それは、六〇年代以来、怒るべきものに対して沈黙しようとしなかった若者たちが、そして若者たちの問いかけを逃げることなく受け止めた大人たちが、左右を越えて存在したことによる。六〇年代、若者たちとともに立ち上がったとき、ゼレはすでに三〇後半であった。彼女の直情径行を見守りつづけた先行世代の中に、ノーベル賞作家ハインリヒ・ベ

この「回想録」は、出会うさまざまな人々に深く影響され、さまざまな事件に深く共感し、深く傷つき、深く考え、深く学ぶことをつづけてきた誠実な魂の記録である。随所に、いまなお出血しかねない傷がうずいている。愛国少女だった一六歳のころ、自分の中にユダヤの血が流れていることを知って慄然とし、「だって私はたったの八分の一なのだから」と書いた日記の文章に、深く傷つきながら、逃

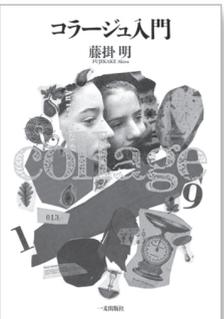
ルもいた。一九八三年、ゼレたちは、フランコ独裁下のスペインで死刑判決を受けた政治犯たちのために、ケルン大聖堂を占拠し、「夜を徹して祈る」ことを計画する。教会幹部たちが「トイレが足りない」といい、「翌月の祈祷日」に来るように論じたとき、その場にいた当時六六歳のベルが言う。「でもゲツセマネを延期することはできないでしょう」（二七五頁）。これこそ「大人」である。逆風にさらされる彼女の後ろから、「ゲツセマネ」という順風が優しく支える。「祈り」をともにするとき、人々は「夢」を共有する。そのようにして共有され受け継がれてきた霊的な土壌の厚みをずっしりと伝える一冊である。

（やまと・やすお 横浜国立大学教授）
（四六判・三三六頁・本体二九〇〇円＋税・新教出版社）



コラージュ入門

藤掛明
FUJIKAKE Akira



立ち止まって、
たましいの深呼吸。

コラージュとは
心理療法の一つ。
イメージ遊びで、
意外な自分の発見が。

A5判
定価 [本体 1,400 + 税] 円
ISBN978-4-86325-122-9



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

「いつも通りの礼拝」とは 何だったのか？

〈評者〉北村裕樹



今、礼拝を考える

ドラマ・リタジー・共同体「新装増補版」
越川弘英著

本書の初版が出版されたのが二〇〇四年。手元の蔵書データベースによれば「越川先生より」と記されている。著者が京都に來られて三年目、たまたま同じ教会に通っていた縁で頂戴したのだろう。当時、著者が翻訳されたJ・E・バークハート著『礼拝とは何か』を教会の読書会で読み、解説していただくなど、贅沢な時間を過ごしていた。その流れで読んだ初版は、実に刺激的だったと記憶している。礼拝の諸要素ごとに解説と例示がなされ、気になる箇所はどこから開いても問題ない。後書きにもあるように、そもそも教会説教として準備されたものを下地として書かれているから、一つ一つが非常にわかりやすい。専門知識の前提無く読むことができる。

しかし、本書の持つ本当の力がわかってくるのは、実際に教会の現場で働き出してからだだった。信徒たちから礼拝として区分され、読みやすくなった。おそらく、この一六年の間、大学教員として多くの学生を指導してこられたことが、「よりわかりやすく」という今回の改訂に影響しているのだろう。

これだけで十分、新版として出せそうだが、今回はさらに増補Iとして「最近の教会建築と礼拝を考える」「3・11後の礼拝を考える」、増補IIとして「牧師と礼拝のリアル」「これからの礼拝の話をしよう」の四項が追加された。礼拝する空間としての教会堂のあり方、集う者の心構えについて考えさせられた後で、礼拝そのものが持つ本質的な力の大きさ、力強さを突きつけられる。牧師と礼拝のリアルな現状が数値化された次に、ではこの現状に対してどのように向き合っていくのかと問われる。一つ一つは季刊誌

について尋ねられるたび、「ここに書いてあったことが近い」「この状況とよく似ている」と、この一五年の間、何度も何度も読み返してきた。その『今、礼拝を考える』が新装増補版として新たに出版された。

新装増補版を読んだ印象は「さらにわかりやすくなった」。もともと、様々な礼拝学に関する書籍が引用されており、礼拝について知りたい、学んでみたいという人にとって入口となるものだったが、その印象はさらに強くなった。大きく変化したのは次の四点。①キーワードがゴシック体で強調されて、よりわかりやすくなった。②初版にはなかった傍点も付されて、著者が言いたいこと、伝えたいことがより明確になった。③出版後に翻訳された書籍のデータが更新され、また出版社も併記されたことにより、引用されている資料に当たりやすくなった。④引用が引用

『Ministry』に掲載された際に目を通していたが、こうしてまとまると改めて「自分たちの礼拝を見つめ直す」ことへと導かれる。

特に、新型コロナウイルスによって共に集うことができない、あるいは難しい今、『いつも通り』の礼拝という言葉が大きく迫ってくる。全くの偶然だろうが、実にタイムリーな出版であったと言えるだろう。当たり前が当たり前でない今こそ、牧師、信徒を問わず、それぞれの「いつも通り」とは何なのか、自分が大切にしている「礼拝」とは何なのかを考えるために本書に聞いていただきたい。

(きたむら・ひろき) 日本基督教団武蔵野扶桑教会牧師
(四六判・三〇四頁・本体一八〇〇円＋税・キリスト新聞社)

礼拝の意味を問い続けてきた画期的な書に
新たな章が加わり待望の復刊

〈新装増補版〉

今、礼拝を 考える

ドラマ・リタジー・共同体

越川弘英 著

さあ、はじめよう。

「神の民のわざ」
としての礼拝の再発見。
教会にとって、ほんとうに
大切なことを探す旅。



「キリスト者の人生における礼拝の意味」を問い、「キリスト教礼拝の全体のイメージ」を考察。招詞から祈り、聖書朗読、説教、献金、聖餐、祝福まで、礼拝で行われる、それぞれの意味を丁寧に解き明かす。キリスト教礼拝の多様性と豊かさを味わうための一冊。

新たに「教会建築と礼拝」「3・11と礼拝」「礼拝の診断」、1500の教会を対象に行った大規模アンケート調査を元にした論考も新たに追加。

四六判・並製・304頁・本体1800円＋税

キリスト新聞社 since 1946
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
AVACOビル6階 TEL 03-5579-2432

宇宙の本質を信仰の目によって

〈評者〉**藤原淳賀**



宇宙の筋目に沿って
教会の証しと自然神学
スタンリー・ハワーワス著
東方敬信訳

ギフォード講義とは何か？ それはアダム・ギフォード卿（一八二〇―一八七）によって設立され、一八八八年よりスコットランドで行われている榮譽ある学術講義である。

ギフォード卿の遺志によりその目的は「その最広義の意味における自然神学の研究、換言すれば神についての知を促進・普及すること」とされている。自然神学とは、神についての認識を、啓示によらず理性によって探究する試みと通常理解されている。これは一九世紀のギフォード卿らしい、近代的なアプローチ、科学的アプローチ、リベラルなアプローチである。しかしハワーワスは「ギフォード卿の自然神学の理解は、滅んでゆくキリスト教世界で知解可能性を失うまいとし、さらにリベラルな社会秩序でも力を失うまいとする絶望的な試みの一つである」という。

二〇世紀のギフォード講師の中で、伝統的自然神学の対

はイエス・キリストによって啓示された。善をもって悪に勝ち、犠牲を払い、赦し、愛する生き方である。それが天まで貫く神のご性質であり、それがこの宇宙全体を貫いている。墮落した世界の片隅で、駆け引きや策略、戦争によって、「現実主義」として一時的な支配を得ることができて長くは続かない。宇宙の筋目に沿っていないからである。あるべき自然神学とは、理性や科学、統計によって計算できる仕方でアプローチするものではなく、キリストに現された宇宙の本質を信仰の目によって見、そのような生き方をするというものである。そして教義と倫理（生き方）は分離できない。それがハワーワスの主張である。

ハワーワスは二〇世紀のギフォード講師の中から、ウイリアム・ジェイムズとラインホルド・ニーバー、そして

極に位置するのがカール・バルトであり、二一世紀に自然神学の対極にいるのがハワーワスである。ハワーワスを知る者の関心は、彼がギフォード講義で何を語るのか、ということであった。

ハワーワスは一章で、本講義がどのような意味での自然神学なのかを論じる。それは「With the Grain of the Universe」というタイトルに現れている。これは、ハワーワスが強い影響を受けた（そしてパーゼル大学でバルトのもとで学んだ）ジョン・ヨルダーの論文からの引用である。日や星を動かす神は、ナザレのイエスに受肉した神と同じ神であり、「私たちが礼拝する神とその神に造られた世界は、十字架なしには正しく認識できない」という。

Grainには木目、筋目といった意味がある。木に木目があるように、神が造られた宇宙には神の筋目がある。それがカール・バルトを選び論じる。ジェイムズは、ダーウィン主義とプラグマティズムを結合し自然科学に似たキリスト教を自然科学として論じた。近代では自然科学的方法が全てを測る基準となってしまった。ニーバーはジェイムズと同じく「キリスト教を当時の知的エリートに受け入れられる基準に照らして検証すべきだと」考えた。

バルトは、神学的主張を非神学的基準に合わせることを拒否した。理性、宗教経験、科学からではなく神について語ることから始める。そのときに初めて人間について、自然について語るができるとする。

本書は一九―二一世紀の神学の流れを知るためにも非常に重要な本である。東方敬信先生のお働きに敬意を評したい。

（ふじわら・あつよし 青山学院大学教授）
（A5判変型・四一六頁・本体二八〇〇円＋税・ヨベル）



新刊

死生学年報 2020

死生学の未来

東洋英和女学院大学
死生学研究所編
●A5判並製 本体2500円＋税

古代の死生学から未来へ
『ギルガメシュ叙事詩』を
読みなおし続ける
渡辺和子

●
現代世界における
「宗教」のヴィジョン
鶴岡賀雄

●
哲学的主題としての
死後生の問題
深澤英隆

●
心の病に寄り沿うということ
福田 周

●
ひきこもり状態にある人々の実態
渡部麻美

●
この人生をどう終えるか
人生の終末期における意思決定と
死生観について
奥野滋子

●
「小さな死」と「救し」
大林雅之

●
復讐は生きがいとなるのか
根岸紗那

●
他、7篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

高校生と福音の出会いを 紡ぐ励ましの書

〈評者〉 矢澤励太



JKに語る!
新約聖書の女性たち
久野 牧著

「ことばの力」が試されているこの時代に、励ましを与える書が世に出た。この春まで日本キリスト教会函館相生教会牧師として仕えた伝道者久野牧氏の説教集である。タイトルが異色である。「JKに語る! 新約聖書の女性たち」と題され、二〇一八・一九年に同教会で行われた説教をまとめたものである。夏の課題に取り組むため、近隣のキリスト教学校である遺愛学院から多くの女子高校生（JK）が同教会の礼拝に出席する。そこで高校生が興味を持ち、理解しやすいようにと祈りつつ備えられ、語られたのがここに収められている諸説教である。いやされた女性たち、主イエスに仕えた女性たち、罪を赦された女性たち、たとえの中の女性たちが次々と登場し、彼女たちが主イエスと出会うことを通して起こった新生経験が、今を生きる高校生にも起こる出来事として語られる。

「ことばの力」が試されているこの時代に、励ましを与える書が世に出た。この春まで日本キリスト教会函館相生教会牧師として仕えた伝道者久野牧氏の説教集である。タイトルが異色である。「JKに語る! 新約聖書の女性たち」と題され、二〇一八・一九年に同教会で行われた説教をまとめたものである。夏の課題に取り組むため、近隣のキリスト教学校である遺愛学院から多くの女子高校生（JK）が同教会の礼拝に出席する。そこで高校生が興味を持ち、理解しやすいようにと祈りつつ備えられ、語られたのがここに収められている諸説教である。いやされた女性たち、主イエスに仕えた女性たち、罪を赦された女性たち、たとえの中の女性たちが次々と登場し、彼女たちが主イエスと出会うことを通して起こった新生経験が、今を生きる高校生にも起こる出来事として語られる。

本書に一貫しているのは夏の課題で教会に出席した高校生にとって、この機会が本当の救い主イエス・キリストとの出会いの時となることを願う祈りである。たとえば次のように語られている。「よたよたしながらでも、主に従って行こうとする者を、主は愛して、決して見放されることはありません。そしてついには信仰の高みへと導かれるのです」（五四頁）、「目標に向かって全力を注ぎながら、見えない神にも目を注いで祈りつつ日々を過ごす、そのような生き方があることをぜひ知って欲しいと思いますし、そうした日々を過ごしてほしいと願います」（二二〇頁）。そしてキリストの香りを身につけた、使命に生きる人生へと送り出したいという祈りもこめられている。「他の人との比較は必要ありません。中学生、高校生一人ひとりにも、その人しかできない何か神によって用意されているに違いない」（やざわ・れいた）北陸学院大学教授

（やざわ・れいた）北陸学院大学教授

ヨベルの新刊案内
スタンリー・ハワース 東方敬信訳 A5判変型
世界の注目を集めた「ギフォード講義」 四二六頁・二八〇〇円
宇宙の筋目に沿って 教会の証しと自然神学 ISBN978-4-909871-13-8
礼拝とは神の王国を先取りする行為なのだ。
自然神学に関する研究の舞台として名高いセント・アンドリュース大学「ギフォード講義」を中心に、礼拝を中心とする神学、倫理学、確立を強く説き、証しする共同体としての教会の今日的意義を熱く展開させた碩学、スタンリー・ハワースによる講義!

岡田聡訳 A5判変型
フリッツ・ブリー 実存の神学か、実存の哲学か? 四六六頁・一五〇〇円
実存の哲学か、実存の神学か?
シュヴァイツァー、ヤスパースらから影響を受け、ブルトマン、バルトラムの対決のなか、自らの「哲学的神学」を形成したフリッツ・ブリー。
四六六頁・一六八頁・一五〇〇円 ISBN978-4-909871-14-5
ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 星 (税別)

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本

キリスト教書店大賞2020

主催 キリスト教出版販売協会

2019年1月～12月に出版された
キリスト教書の中から

全国のキリスト教書店員が大賞を選出します。



ノミネート 10作品

〈タイトル50音順〉

※表示価格は10%税込価格

かみさま、きいて! こどものいのり

かみさま、きいて!
大澤秀夫・真壁 麻 監修
1,100円

オススメ
幼稚園のノンクリスチャンの先生もいっしょになってお祈りできる良い本です。
キリスト教書店ハレルヤ 嶋津秀成さん

愛の余韻 榎本てる子・命の仕事

愛の余韻 榎本てる子
榎本てる子 著
青木理恵子 編
1,980円

オススメ
手にとる方の心に響いたからか、気がつくや在床が無くならない。命をかけた証しは心に響くものなのだと感じた。
善隣館書店 浜田陽子さん

新しい一人の人

新しい一人の人
ユダヤ人と異邦人の和解
アリエル・ローレンス・ブルメンソール 著
One New Men 翻訳チーム 訳
2,200円

オススメ
ユダヤ人と異邦人の隔ての壁、人の持つ罪について新しい視点を与えてくれました。興味深い内容で、教会での学びにも使用しています。
ゴスペル・ライト・ストア 南 康乃さん

十字架への道 受難節の黙想と祈り

十字架への道
小泉 健 著
1,320円

オススメ
レントの黙想と祈りの時を豊かに導いてくれる本です。プレゼントにも最適です。
静岡聖文会 杉村暁子さん

神の祝福をあなたに。

神の祝福をあなたに。
歌舞伎町の裏からゴッドプレス!
関野和寛 著
1,100円

オススメ
前作に比べてタイトルがおとなしいなあと思ったのですが(笑)、舞台は変われど笑いと涙と神さまへの熱い想いであふれていました。
大阪キリスト教書店 上田玲子さん

今日のパン、明日の糧

今日のパン、明日の糧
暮らしにいのちを吹きこむ366のことば
ヘンリ・フウエン 著 嶋本操 監修
河田正雄 訳 酒井陽介 解説
2,640円

オススメ
揺れ動くことが否定的に捉えられがちな中で、揺れ動き、迷うことへの肯定があることに救いを感じられます。
アパコ・ブックセンター 山本真里江さん

にゃんこバイブル

にゃんこバイブル
猫から学ぶ聖書(バイブル)のことば
塩谷直也 著 勝間としを 絵
1,980円

オススメ
表紙のイラストのかわいさに手に取り、各ページの猫たちにほっこりし、添えられている読みことばとエッセイが更に心をいやしてくれます。
ライフセンター新潟書店 永井美智代さん

ぬくもりの記憶

ぬくもりの記憶
片柳弘史 著
1,100円

オススメ
片柳神父のわかりやすい語りが見つづられたとても良い本です。
北九州キリスト教ブックセンター 萩 正博さん

ヒップホップ・レザレクション

ヒップホップ・レザレクション
ラップ・ミュージックとキリスト教
山下社 著
3,520円

オススメ
ラップ・ミュージックとキリスト教との深い関係を解き明かした良書。ラップに対しての考え方が変わった。
教文館 大倉公平さん

若者に届く説教

若者に届く説教
礼拝・CS・ユースキャンプ
大嶋重徳 著
1,320円

オススメ
「説教とは何か?」「説教原稿をどのように作るのか?」という基本から、説教の構成や語り方、若者との信頼関係の築き方までこの一冊で学べます。
仙台キリスト教書店 瀬谷智香さん

キリスト教書店大賞

フェイスブックページ
<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunsyo.or.jp>

2020年3月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：祈禱書のテイスト	松島雄一	
特集：「パウロ」について学ぶならこの三冊!	山口希生	
エッセイ：新井明選集(全3巻) 完結によせて	西永 頌	
エッセイ：デニス・アレクサンダー著『創造か進化か』の翻訳を終えて	小山清孝	
十字架への道	小泉 健著、日本キリスト教団出版局	吉村 和雄
赦された者として赦す	G.ジョーンズ他著、日本キリスト教団出版局	金 迅野
アウグスティヌスの母モニカ	G.クラーク著、教文館	出村 和彦
エルムート・ドロテア フォン・ツィンツェンドルフ伯爵夫人	エリカ・ガイガー著、リトン	立山 忠浩
3分間のグッドニュース [律法]	鎌野善三著、ヨベル	坂野 慧吉
長谷川誠三	岡部一興著、教文館	大西 晴樹
善太先生「聖霊論」を語る	渡辺善太著、ヨベル	辻 哲子

2020年4月号

巻頭エッセイ：祈りのともじびを受け継ぐ歩み	浦上 充	
特集：「苦難の神学」を学び直すならこの三冊!	本多峰子	
教会でも、がん哲学外来カフェを始めよう	樋野興夫編著、日本キリスト教団出版局	神保 望
現代新約注解全書 第二コリント書10-13章	佐竹 明著、新教出版社	広谷 和文
クリスマスの約束	大嶋重徳著、教文館	豊田 信行
神の壮大な計画	松本敏之著、キリスト新聞社	荒瀬 牧彦
いつか笑える日が来る	奥田知志著、いのちのことば社	沢 知恵
一日一禱	石井錦一他著、日本キリスト教団出版局	古屋 治雄
トゥルニエを読む!	工藤信夫著、ヨベル	坂巻 隆男
復讐の詩編をどう読むか	E.ツェンガー著、日本キリスト教団出版局	飯 謙
VTJ旧約聖書注解 列王記上1~11章	山我哲雄著、日本キリスト教団出版局	勝村 弘也
恐れるな、小さき群れよ	基督教共助会出版部編、ヨベル	加藤 常昭

2020年5月号

巻頭エッセイ：宝探し	田中健三	
特集：「預言者」を学び直すならこの三冊!	金井美彦	
精神障害とキリスト者	石丸昌彦監修、日本キリスト教団出版局	申 英子
政治神学の想像力	ウィリアム・キャヴァノー著、新教出版社	加藤 喜之
アウグスティヌス『神の国』を読む	金子晴勇著、教文館	和田 光司
人生のすべての物語を新しく	濱 和弘著、教文館	藤本 満
森 明著作集 [第二版]	基督教共助会編、ヨベル	金子 晴勇
聖なるたたずまい	大井 満責任編集、ヨベル	大嶋 重徳
アベルのところで命を祝う	ジュセッペ三木一著、ヨベル	川上 直哉
ベツレヘムの星	原 野百合著、ヨベル	中村 和雄

10周年記念企画 読者が選ぶ「歴代ベスト3グランプリ」2011~2019

キリスト教書店大賞10周年を記念して、歴代ベスト3作品27点の中から、読者投票で「歴代ベスト3グランプリ」を決定します!
歴代ベスト3の中で好きな本1位から3位に投票しよう! 1位を3点、2位を2点、3位を1点として、期日までの合計得点が最も高い作品が「歴代ベスト3グランプリ」!

投票サイト http://tagvote.grinspace.jp/Cb01_Vote?Key=114f5d3096a846ff8a5f1a9d4c9f9417

投票 ▶ 2020年7月31日まで

発表 ▶ 2020年8月上旬

*投票は外部サイト「タグボート」で実施します QRコード読み取りでもアクセスできます。
*投票はお一人1回のみ有効です



書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrinkan_syoten_0530@afso.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・177F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbdo.com/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.jp/~yohatara-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖繩キリスト教書店	903-0207	中瀬西調子線777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2020年4月~5月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
三浦 望	N T J 新約聖書註解 第1、第2、第3ヨハネ書簡	A 5	506	6,000	日本キリスト 教団出版局	4/24
高原 貞美、 敬子 編著	正義と平和の口づけ —日本カトリック神学 の過去・現在・未来	四六	232	2,000	〃	4/25
ドロテー・ゼレ著 三鼓 秋子 訳	逆風に抗して —ドロテー・ゼレ回想録	四六	336	2,900	新教出版社	4/30
越川 弘 英	[新装増補版] 今、 礼拝を考える —ドラマ・リタジー・共同体	四六	304	1,800	キリスト新聞社	4/10
西谷 幸 介	母子の情愛 —「日本教」の極点	新書	208	1,100	ヨベ ル	4/10
スタンリー・ハワー ワス著、東方敬信訳	宇宙の筋目に沿って —教会の証しと自然神学	A 5 変	416	2,800	〃	4/15
フリッツ・ブーリ著 岡田 聡 訳	実存の神学	四六	168	1,500	〃	4/20
久野 牧	J K に語る! 新約 聖書の女性たち	A 5 変	140	1,600	一麦出版社	4/8
「改革教会の礼拝と 音楽」編集委員会編	みことばをうたう 改訂版	B 6	552	3,000	教文館	5/27
J.J. コリンズ著 山吉 智久 訳	『死海文書』物語 —どのように発見さ れ、読まれてきたか	四六	256	2,400	〃	5/30
林 牧人 編	信仰生活ガイド —祈りの	四六	128	1,300	日本キリスト 教団出版局	5/22
宮本 久雄、 石井 智恵美 編	押田成人著作集2 世界の神秘伝 承との交わり — 九月会議	A 5	260	2,700	〃	5/25
越川弘英、増田 琴、小友 聡、柳下 明子、山本光一著	洗礼を受けるあなたに —キリスト教につい て知ってほしいこと	四六	152	1,600	〃	5/25

福音と世界

2020年08月号

特集 反・内戦

寄稿者 杉村昌昭、渡名喜庸哲、大野光明

原口剛、阿部小涼、仲田教人

好評連載 「Say a Little Prayer」開かれる世界(栗田隆子)、「いまを生きていることば」(金退野)、「パシロンの路上」Conjecture of a Son of a Preacher Man (マニエール・ヤン)、「くまざんのシネマめぐり」(好井裕明)、教文学入門(土井健司)、「新約釈義」テモテ書(辻学)ほか

A5判・本体600円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

二〇二〇年二月号の本欄に、「映画館でスマホを見る人」問題について記した。文中「礼拝中にスマホを見るような人を見たことはい」と書いたのだが、早速、読者から「いますよ、礼拝中にスマホを見る人」という電話があった。まさかと驚いたのも束の間、コロナ禍によって教会のオンライン化が一気に加速し、礼拝そのものを自宅でスマホを通して参加する事態となった。

会社や学校と同様、教会もオンライン化が進んでいる。異常事態による教会と礼拝の変化は避けられないが、信徒が集まってこそ礼拝だという思いを持っている人には、寂しさがあるのではないだろうか。私もその一人である。信

予告

本のひろば

2020年9月号

本・批評と紹介

(特集・この三冊!)「疫病と歴史を学び直すなら」村上陽一郎、(書評)アウグスティヌス著『アウグスティヌス著作集第19/I 詩編注解(3)』他

仰告白も主の祈りも声を合わせて身に付けてきた。「学ぶ」という言葉は、「真似ぶ」から派生したと聞く。オンライン礼拝では「学ぶ」ことはできても、「真似ぶ」ことは難しい。

ノスタルジックかもしれないが、教会に通い始めたころ、高齢の女性信徒の多くは着物に羽織姿だった。ラフな服装だった私も自然とスーツ・ネクタイ姿になった。それは先達からの「真似び」によるものであり、何の違和感もなかった。後に教会は大きなトラブルに見舞われるのだが、「これからどうなるのでしょうか?」という私の問いに対して、羽織姿の女性たちは、「起きてしまったことは受け入れるしかありません」と、厳かに論じてくださった。教会共同体を、その時ほど実感したことはない。コロナ禍の収束を祈りつつ。(寺田)

次世代への提言!

神学生交流プログラム講演記録集

日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター編

次の教会を担う人たちへ

ユニークな神学生交流の場で語られた至言の数々。荒井献、小林哲夫、本田哲郎、関田寛雄、杉野榮、青野太潮、森一弘、並木浩一、石田学、神田健次、戒能信生。

◆A5判・本体2100円

主イエスの言葉と働き

ヴァルター・リムナイ著／野崎卓道訳

ルカ福音書1章から

スイスの名説教者が第二次大戦後の混乱期に語りかけた珠玉の講解説教61編。

◆四六判・本体2300円

イエスの福音

それは本当は何だったのか

ジェイムズ・M・ロビンソン著／加山久夫、中野実訳

Q資料やトマス等「言葉福音書」から、ガリラヤでイエスが語った本来の福音に迫る。付・言葉福音書Q本文。

◆四六判変型・本体3500円

キリスト教史 下巻 増補新版

宗教改革から現代まで J・ゴンサレス著／石田学・岩橋常久訳

定評ある通史の増補新版が待望の邦訳! 2010年の原書・増補新版では2章の追加と改訂がなされた。

◆A5判・本体5900円

現代のバベルの塔

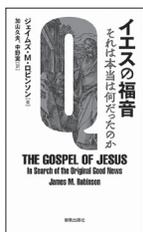
反オリンピック・反万博

新教出版社編集部編

東京オリンピック・大阪万博、さようなら!

寄稿者||有住航・いちむらみさこ・酒井隆史・入江公康・塚原東吾・田中東子・坂井めぐみ・井谷聡子・白石嘉治

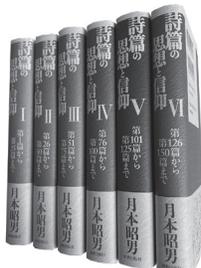
◆四六判・本体2000円



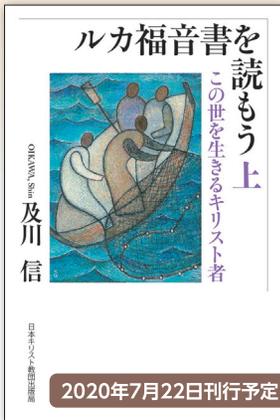
詩篇の思想と信仰 全6巻完結!

月本昭男 厳密な試訳、詳細な語釈、各詩の構造と成り立ちの分析、そして思想と信仰について、深く行き届いた解説。

- | | | | | | |
|-----|-------------|-----------|----|---------------|-----------|
| I | 1 篇 - 25 篇 | 本体 3200 円 | IV | 76 篇 - 100 篇 | 本体 3200 円 |
| II | 26 篇 - 50 篇 | 本体 3800 円 | V | 101 篇 - 125 篇 | 本体 3900 円 |
| III | 51 篇 - 75 篇 | 本体 3300 円 | VI | 126 篇 - 150 篇 | 本体 3400 円 |



神と共に変わりつつ——この世を生き抜くためのメッセージをルカ福音書に聴く



ルカ福音書を 讀もう上 及川 信

この世を生きるキリスト者

たとえ話の宝庫であるルカ福音書を、全体の文脈を通して読み解くことで、一つひとつのたとえ話がさらに深く私たちの心に響く。上は12章までの黙想を収録。

◆四六判 並製・280頁・2,860円

2020年7月22日刊行予定

シリーズ好評発売中

※「マタイ福音書を讀もう1」は品切れ

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 『詩編を讀もう 上』 広田叔弘 2,200円 | 『マタイ福音書を讀もう2』 松本敏之 1,980円 |
| 『詩編を讀もう 下』 広田叔弘 2,200円 | 『マタイ福音書を讀もう3』 松本敏之 1,760円 |
| 『コヘレトの言葉を讀もう』 小友 聡 1,540円 | 『ガラテヤの信徒への手紙を讀もう』 船本弘毅 1,650円 |
| 『エレミヤ書を讀もう』 左近 豊 1,540円 | 『ヨハネの黙示録を讀もう』 村上 伸 1,980円 |

『信徒の友』記事に書き下ろしを加えて書籍化、信仰生活(再)入門シリーズ



信仰生活ガイド 《全5巻》

使徒信条 古賀 博 編

第3回 配本

キリスト教信仰の「骨格」と言うべき使徒信条を、現代日本に生きる人々の生活と思いに寄り添いつつ、分かりやすく解き明かす。◆四六判 並製・128頁・1,430円

2020年7月21日刊行予定

シリーズ案内

- | | |
|---------------|----------------------|
| 『主の祈り』 1,430円 | 『信じる生き方』 10月刊行予定 |
| 『十戒』 1,430円 | 『教会をつくる』 2021年1月刊行予定 |

本
の
ひ
ろ
ば

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
 二〇二〇年八月一日発行 毎月一回一日発行
 第七五二号 二〇二〇年八月号

発行所 〒163-0614 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
 電話〇三-三三六〇-六五二〇 振替〇一七〇五-一六七九
 発行人 金子和人 編集人 土肥研一 印刷所 ㈱平河工業社
 発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三-三三六〇-五六〇〇

定価七八円(税抜七一円) 定63円
 一年分一三〇〇円(送料共)